

# 研究結果報告書

所属：壇国大学日本研究所

役職：研究教授

氏名：鄭敬珍

本研究は比較文化史の観点から、18世紀以後日朝の文人雅集にみる文人文化の普遍性と特殊性を明らかにするこを目的とし、そのためのには、まず、東アジア文化の発信者であり、享受者でもある文人たちを、その中心にいかんにかつなげていったのかに注目する必要があること、をの研究においては、特定の個別文献や人物に焦点があてられること、雅集全体的ダイナミズムについてはあまり論じられてこなかった。そのよな問題意識から、本研究では文人雅集を東アジアにおける「文化コード」と位置づけ、詩作や飲酒、遊山などを媒介とする雅集内の文人たちの交遊をより立体的に究明するため、デジタル・ヒューマニティーズ（人文情報学、DH）の研究方を用いて考察を進めた。DHとは人文的問題を情報学的手法を用いて解くことにより新しい知識や視点を得ることを目指す情報学と人文学の融合分野であるが、とりわけ、文人のネットワーク（交遊網）をDHの手法によって分析することは日朝、ひいては東アジアの文人比較研究においても大いに役に立つと言える。

具体的には、2021年下半期から釜山大学と韓国中央研究院の研究チームと合同に古典文学・文化におけるDH研究の研究會を重ね、GephiやPython（形態素解析）、SQL実行のためのデータモデリングなど様々な分析手法を用いた事例を発表・議論し、研究成果を論文として掲載した。2021年4月以降のこれらの研究活動を通して、文献の内容をデータ化すると同時に、それぞれの文人の生涯を個別にたどるのではなく、文人同士のつながりを視覚化し、その拡張性をクエリ（query）できる基盤を模索することができた。ならびに、文人雅集における交遊媒介となる作詩と関連し、詩論書を用いて文人にとっての作詩の意義と変遷をも鮮明にすることができた。今後は、本研究での成果及び試みを通して、東アジアの文人雅集の全体像を浮き彫りすることのできる日中間の横断研究の実施につながることを期待している。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

「18世紀日本の文人交遊ネットワークのデータモデリングー頼春水の『在津紀事』を中心に (18세기 일본 문인 교유 네트워크의 데이터 모델링 시론: 라이순스이(頼春水)의 『자이신키지(在津紀事)』를 중심으로)」・鄭敬珍・『日本研究』41号 (韓国、高麗大学グローバル日本研究院・2024年2月)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)